

# “夜明け”は近い！

## 頑張ろう！

会長 鈴木 精成

「新型コロナウイルス」感染症の拡大が依然として続いていますが、会員皆様およびご家族のご無事を心から祈っています。

ワクチン接種も進んでいる様子ですが、今私たちに望まれるのは、自分自身を守る自覚と他者への思いやりを、行動に生かすことでしょう。マスク、手洗いの励行と、「三密」の徹底回避です。これまでの一年半以上に本気で取り組むべきかも

岳精流日本吟院

# ちよあ

第 67 号

令和 3 年 7 月  
千代田岳精会弘報

令和三年岳精流指標

# 自在の心

知れません。

過日の「全国吟道大会」への千代田メンバーの積極的な参加は、厳しい条件下での開催に大きな貢献を為したのではないかと思います。残念ながら当日の参加を見合わせた約半数の吟友の心も一体として「一般合吟」で存分の吟詠が披露できたと確信しています。独吟コンクール代表の吟、構成吟での吟詠、剣詩舞も高い評価を得ています。当日大会に於いて、大会役員として「会場係」

「舞台係」そして「司会」の大役を担われた皆様には、心から御礼を申し上げます。事前の準備等にも時間をかけ、固いチームワークで大会に臨まれた様子をつぶさに見出し、頭の下がる思いです。「会場を去ろうとする時、最後まで片付けをして帰ろうとする役員のグループと顔を合わせたのが、『やったぞ』と言わんばかりの皆さんの表情に触れて、岳精会は素晴らしいと思わずにおれなかった」（宗家「七月のことば」）。

年間を通じての諸行事の中で、これから取り組む「昇伝一般審査会」は非常に重要な会でありま

す。昨年は「コロナ」禍真つ直中のため、会としての合同統一実施が出来ず、いろいろな工夫のもとに「変則」実施をいたしました。

今年も、諸般の条件を勘案しながら「審査会」の合同実施を行うべく目下計画中です。既にご承知のとおり、九月二十四日（金）に「新宿文化セ

ンター」にて行う予定です。既に受審申請も提出いただいております、一五〇名余の方々に参加予定です。是非実現し「コロナに勝った」証しをうち樹てたいものです。「審査会」に向けての練習も思うに任せぬことでしょうか、オンラインやホームページを活用して、「自前の」練習を工夫することも大事かと思えます。

この七月の幹部連絡会の報告の中で、約八割の教場が対面（集合）研修を再開しているとのことでした。明るい希望を感じます。やはり教場は吟友と出会うことで活気が生まれるものでしょう。

一方、ホームページ委員会の報告によると「千代田岳精会ホームページ」への六月度のアクセス数状況で「範吟一覽」が四五七、「教本一天」が二九九等の結果が出ています。教場とはまた異なった場面で自主研修に取り組む皆さんの様子が伺われます。これからは皆さん出合いの「教場研修」を中心として、加えて個別の中広い研修が進むことと思えます。

この夏、大変な課題を背負いながら「オリンピック」「パラリンピック」が開催されています。難しい問題を抱えての大会ですが、成功裡に終わることを願っています。

私たち千代田も今年の「創立三五周年記念」の催しを延期し、来年に持ち越しています。来秋の良き日を設定して「記念の集い」を開催するため、目下企画委員会で計画取組み中です。皆さんのご協力をお願いいたします。

“明るい夜明け”はもうすぐです。頑張りますよう。

# 千代田岳精会人事

◇二月一日付

新陵教場長

柴田豊山

同 副教場長

西川琉泉

同

小梶湖山

同

和田之山

経理部門サブリーダー

青木青山 (新陵)

許証部門サブリーダー

西川琉泉 (新陵)

◇二月一日付

表参道教場副教場長

松岡省泉

◇四月一日付

新宿ブロック長

坂下光山

生田教場副教場長

関根雄山

千吟会リーダー

中内博風 (金町)

◇五月一日付

新宿支部教場長

橋本淳風

◇七月一日付

会長補佐

宮野幸山 (東陽町)

総務部門リーダー

鎌田秋山 (丸の内)

事業部門リーダー

関根雄山 (生田)



## 会長補佐を拝命

東陽町ブロック長 宮野 幸山

私は二〇一〇年八月に鈴木会長のご紹介で千代田岳精会に入会いたしました。今年十二年目になります。

詩吟のご縁で千代田岳精会の中で楽しく過ごしており、今も午前中は大リーグの大谷選手の活躍を楽しみ、午後はズームで詩吟の勉強、近所のお寺さんの境内で詩吟の練習をして遊んでおります。

この度、会長補佐の要職に任命されました。今迄と同じ気持ちで会長を補佐し、伝統ある千代田岳精会を次世代にレベルアップしてバトンタッチが出来ますように、会員の皆様と一緒に実践して行きたいと思っております。

## 新宿ブロック長を拝命して

新宿ブロック長 坂下 光山

前ブロック長の出水田鶴風先生が急逝されたことからブロック長となるようにと鈴木会長から電話を頂いた。私は、実年齢はともかく詩吟年齢は十年未満の若輩であり、ブロック内には経験豊富な先輩たちが何人もおられるので、内部で相談してからご返事しますと申し上げた。

意に反して、先輩たちからお前がやれと言われて、このような重責を果たす自信は無いながら、皆様のご指導、ご協力のもとで頑張ってみようとお引き受けすることとしました。

コロナ禍のなか、新宿ブロックの教場運営にも様々な問題がありますが、ズームによる指導を含ませて乗り切って行きたいと思っております。会員のワクチン接種も進んでいるようですので対面教場の再開もそう遠くのことではないと期待しています。

皆様ご指導宜しくお願い致します。

## 総務部門リーダーを拝命

丸の内支部副教場長 鎌田 秋山

この度、図らずも総務部門リーダーという大役を命ぜられ、戸惑いと身の引き締まる思いです。

総務部門の仕事は主に会の関連部門との連携の下に、会活動の推進に関わる諸データの整理、管理を行うと共に総本部関連事項、諸情報の把握です。その中でも毎年行われる総本部主催の「全国吟道大会」の諸準備が重要な仕事の一つです。千代田岳精会に入会して九年となり、丸の内支部教場の副教場長として教場の運営に関わっております。

今回は会員数三〇〇人を超える組織の中で任務を遂行していかないといけないので、不安な気持ちで一杯です。幸い前任者であられた故出水田鶴風先生、その後を引き継がれた宮野幸山先生の資料を頂いております。早く業務の内容を理解し会の運営に寄与していきたいと思っております。会の発展には会員の皆様の協力が一番だと思いますので、会長はじめ各関連部門長、各教場長のご指導とご協力をお願いいたします。

## 事業部門リーダー新任のご挨拶

生田副教場長 関根 雄山

この度、七月一日付で千代田岳精会事業部門リーダーに就任しました。この様な大役を頂き身が引き締まる思いです。

事業部門の業務について、前任の犬飼鎌倉教場長との引継ぎの時のことを述べさせていただきます。

主な業務は本部主催による全国吟道大会時、運営の一部を担当することです。次に千代田温習会の時、担当部門のお手伝いをすることです。次に本部主催による一年に一度の独吟コンクール時、集計業務を担うことです。以上が事業部門の主な業務と引き継いでおります。

これらの任務を遂行するためには千代田岳精会皆様の助力が必要不可欠となります。コロナ禍のなか、今年の全国吟道大会はお陰様で無事終了しましたが、来年は六月十一日に記念大会を予定しているとのことです。私も微力ながら精いっぱい務めさせていただきますので、今年と同様のご支援、ご協力をお願い申し上げます、就任の挨拶いたします。

## 新陵教場長に就任して

新陵教場長 柴田 豊山

新陵教場は発足後今年が八年目で千代田岳精会が設立三十五年を過ぎていることからすると、まだまだ若いグループということになります。

新宿に集う陵水会（大学OB会の名称）メンバーによる会であることから「新陵会」と名付け八名にてスタートしました。五年を経過する頃には二〇名を超えるまでに拡充しましたが横浜を拠点とした「みなとみらい教場」が分離独立すること等により現在は十二名での運営となっております。

私は三代目の教場長であり、優秀な先輩教場長の足跡を汚さぬことが当面の私的目標となっておりますが、会員の方には①吟力の向上②吟友の輪の拡大③現状体制の整備と将来を見据えた運営体制の考察、を三大目標に掲げると共に教場のキヤッチフレーズとして「熱吟温語」く熱く吟じ、温かく語らう教場を定め活動に入っております。ご支援の程宜しくお願い致します。

## コロナに負けない！ 全国吟道大会開催

昨年日本に上陸した新型コロナウイルスは一年半が経過した今日、ワクチンが異例の早さで開発され、接種も進んでいますが依然として世界でも日本でも蔓延が続いています。

初めて直面し、誰も対応が分からない昨年、大会は直前に中止。今年も断続的に緊急事態宣言が出るなど状況の展開が読めない状態が続く中、宗家の「会場使用が停止とならない限り、恐れず侮らず、考えられる用心と対策を試みて開催する」

との思いを受け、開催を大前提としてどのような形で安全を確保できるか最大限の配慮をした計画が進められました。

参加は無理をせず、個々の組織判断に一任となり、結果として関東一円の六会、五支部、教場合同を中心として約五〇〇名の参加申し込みでした。千代田では地元会として参加を前提として、◎大会での役割を積極的に引き受ける◎参加の判断は個々の意向を尊重する、という方針で二〇名が参加を申し込みました。

座席の間隔を十分にとり、会詩合吟は録音テープを流して二年振りの大会の幕は上がりました。第一部合吟の参加は近県六会、五支部、教場合同。録音テープ参加は三会・支部で、出場の会員は舞台上で参加できた幸せを吟じました。

第二部独吟コンクールは昨年二月の実施が延期されたものですが、今回更に断腸の思いでの辞退が多く千代田の二名を入れても七名の参加でした。

第四部の式典で加藤丈夫後援会長、杉田亮毅特別顧問のご挨拶がありました。多くの要職を歴任されているお二人の、広い観点から興味深い内容のご挨拶を聞くことが出来ました。

第五部特別番組「祖宗範 横山岳精先生と宗家 横山精真の吟を舞う」に松尾千壮（ハザマ）小谷野弘彩（熊谷）横山千秀（ハザマ）の三会員が華麗な剣詩舞を披露しました。

第八部構成吟「良寛和尚を求めて」には、俳句「たくほどは」を山口精央（丸の内）、短歌「あるじなき」を徳本龍治・萩原龍晴、「小千谷慈眼寺

にて河井継之助を思う」を一昨年の合吟コンクール優勝チームが出演、剣舞に小谷野煌弘の各会員が出演しました。

終えて感じたことは、事故なく幕を下ろせたという安堵、コロナ禍の中で開催出来たという高揚感、岳精流のこれからに大きな自信が得られたことでしょうか。



千代田、男子チームの合吟

### 全国吟道大会「特別番組」に参加して

ハザマ支部教場 横山 千秀

出演のお話を頂いた時は身の引き締まる思いでした。コロナ禍のため練習場所はどこも閉鎖され、大会日はどんどん迫ってきます。心穏やかではありませんでした。五月半ばにやっと練習できるようになりホッとしたことでした。

練習不足ではありましたが、楽しく演舞でき貴重な経験をさせていただきました。宗家横山精真先生、千峰流宗家金子千峰先生、皆様方のお陰だと感謝申し上げます。当日は久しぶりに諸先生方の素晴らしい吟詠を拝聴でき、とても有意義な一日でした。有難うございました。

### 全国吟道大会に参加して

みなとみらい教場 園山 千代子

首都圏は蔓延防止重点措置が発出されている中、川崎市で二年ぶりに全国吟道大会が開催されました。

宗家の挨拶では、コロナ禍で厳しい中での開催にこぎつけたことを一番承知されているので涙をこらえて感謝を述べられ、私達にも宗家の気持ち伝わりました。

合吟はマイクスタンドの消毒を役員の方がきっちり行われ、首都圏以外の支部も録音披露をされて順調に進行しました。独吟コンクールは素晴らしい吟を披露されていました。構成吟「良寛和尚を求めて」は宗家が企画構成に携わられ、以前、

川崎から新潟まで歩いて良寛和尚の待つ五合庵まで旅をされ、間に写真も折り込まれた構成で特に歩き旅ということに驚きました。

感染対策に最良の努力がなされて大成功でした。準備をされた役員の方々に感謝を致します。



松尾千壮 (ハザマ)



小谷野弘彩 (熊谷)



横山千秀 (ハザマ)

構成吟に出吟して

丸の内支部副教場長 鎌田 秋山

全国吟道大会が昨年はコロナ禍のために止むなく中止されました。しかし今年は、会場が閉鎖されない限り開催しようという宗家の強い熱意の下で徹底した感染防止対策を施したうえで、規模を縮小して開催されました。

構成吟の題目は、宗家が新潟吟行で五合庵まで行った時のものを企画構成した「良寛和尚を求めて」でした。この中の「小千谷慈眼寺にて河井継之助を思う」宗家作を、令和元年全国吟道大会の合吟コンクールに優勝した千代田岳精会メンバーが吟じることになりました。

構成吟で吟じることが決まったとはいえ、コロナ禍で殆どの教場は閉鎖されていて対面で練習できる状況ではありませんでしたが、宮野幸山先生のご尽力によりズームで一回、二反田奉山先生のご尽力による生田教場での合同練習を一回しただけで本番に臨むことになりました。案の定、前日のリハーサルでは練習不足のため調和せず厳しく指導を受け、不安の中での本番でしたが先導の小椋湖山先生の落ち着いた吟出しに続けて吟じられたことに全員安堵しました。

構成吟は大会の華です。推薦して頂いた鈴木会長はじめ、ご指導下さった徳本・萩原両副会長、並びに声援いただいた千代田岳精会の皆様様に厚くお礼申し上げます。

構成吟  
「小千谷慈眼寺にて河井継之助を思う」



菟場 鎌田 小浦場 宮野 小椋



平井 坂下 細川 二反田

構成吟  
短歌「あるじなき」



萩原龍晴 徳本龍治

全国吟道大会が開催されて

新陵副教場長 和田 之山

昨年来のコロナパンデミックが収まるかに見えて又繰り返す困難な状況下で全国吟道大会が開催されました。考えられる限りの対策をした上で大会実施を目指し、きつと何度か自問自答しながら当日を迎え挨拶された宗家の言葉を聞いた時、一瞬胸が熱くなりました。

一般合吟、独吟コンクール、構成吟等に出演された皆様もただでさえ一期一会の思いで演じられる処、今年は厳しい環境での練習になり無我夢中で舞台に立たれたことと思います。一つ一つに思いが込められているように感じ、眼前の吟と舞は迫力が格段に違いました。

経験のない困難な状況で準備を進められた役員の皆様感謝すると共に、力を合わせてここまでやり切られたことに、明るい前向きな元気を頂きました。

## 会場係の苦勞と今後の取組みについて

事業部門リーダー 関根 雄山

会場係の業務は全国吟道大会で会場の配置、設営、当日事故のない運営等陰で支える仕事です。大会役員会等で本部、会、支部、担当者との打ち合わせが多くある中で、私はここ十年間パソコン、ファックス無しの生活を送ってきました。こんな私で業務を遂行できるか色々悩みましたが、岳精会の為少しでもお役に立てばとお受けしました。

今年の大会はスタッフの皆さんのご協力で大きな事故なく終了しました。今後の取組みについては、来年六月十一日に行う記念大会を成功させることだと思っております。コロナが収まっていれば、今年の三倍の全国からの参加者が見込まれます。多忙を極めると思いますが、精一杯務めさせていただきます。皆様のご支援、ご協力を宜しくお願いします。



閉会のことば 鈴木精成

## 吟剣詩舞吟詠コンクール 品川区に三十五名出場

コロナ感染で昨年から諸行事の中止、延期が続くなか、品川区吟詠コンクールが三月二十日(祭)開催され千代田岳精会から三十五名が出場。感染防止対策でこれまでと異なる雰囲気の中、練習環境に苦勞した出吟者は、それぞれの想いを吐露するようなコンクールでした。次の方々が入賞されました。

一部	一位	石井 寅山(新宿)
二部	四位	中野 陽風(新宿)
	九位	中野さと美(神田)
三部	七位	平井 武山(神田)
	八位	宮川 丞風(神田)
	十六位	小林 公風(志茂)
	二三位	坂下 光山(新宿二)
	二四位	林 實山(新宿三)
	二五位	粕川 絃風(神田)
	二八位	波治 舞風(新宿三)
	三〇位	乙訓 稜山(新宿四)
	三二位	加藤 雅山(清流)
	三三位	岡部 禎風(新宿二)
	三四位	久保 杏泉(神田)
	三五位	坂部 玄泉(用賀)
	三七位	中屋 明泉(神田)

都大会は次の開催予定です。

十月二十六日	大田文化の森	一般三部A
同 二十八日	野方区民ホール	一般三部B
同 二十九日	野方区民ホール	一般三部C
同 三十一日	大田文化の森	幼少青年、一般一部
十一月 一日	野方区民ホール	一般二部

上位入賞の一部一名、二部一名、三部七名計九名及び港区連で昨年獲得者二十五名が出場します。練習環境が厳しい中、ご健吟を期待します。

### 初入賞者感想

対峙した日々

用賀教場 坂部 玄泉

昨年コロナによって開催が危ぶまれ、延期決定となる迄の間にコンクール出場経験者との自由練習を何度かご一緒し、心得などを学んでいたことは、今年私の自主練習の大きな支えとなつてひとり練習に励むことが出来ました。

練習は、自分の声を聞くという一番嫌で避けて通りたい作業から始まりました。CDの伴奏に耳を傾け集中し大息をして吟詠に入るーそして再び所謂プレーバックです。これを繰り返していやが応でも自分の今を知っていききました。「下手は上手の始まり、根気よく励むべし」。落ち込みながらの日々です。

そして緊張の中で迎えた本番「立山に望む」、

当日はどうあろうと無事最後まで吟詠できますようにと祈る気持ちで舞台に進んで行きました。結果は何とも有難い「優秀賞」まさかの入賞となり早々に喜びありとなった訳です。対峙した日々感謝です。

### 令和四年度 昇伝審査指定吟題

初伝 偶成 松平 春嶽

焦心録後に題す 高杉 晋作

中伝 従軍行 王 昌齡

鎖夏の詩 袁 枚

短歌(自由選題、教本の中から選ぶ、A、B、Cのどれでもよい)

奥伝 逸題 勝 海舟

暁に順城門を出で

何太虚を懐う有り 掲 侯斯

俳句(自由選題、教本の中から選ぶ)

皆伝 からまつ 北原 白秋

滝山城懐古 角光 嘯堂

短歌、俳句の吟題は自由選題であるが、指定吟題は別途通知

### 【新会員紹介】

◇表参道教場(令和二年十月開設)

鈴木 豊氏(令和二年十一月入会)

青山学院の教員をしております。自己流ですが、教場できちつと勉強します。

薦田 博氏(令和二年十一月入会)

音楽の素養ゼロで来ましたのに、詩吟を習う機会が出来て幸せです。

楯 香津美さん(令和二年十一月入会)

詩吟は一度も聞いたことがありませんでした。楽しみです。

奈良 吉花さん(令和二年十一月入会)

詩吟を通じて四季や風情を味わえる喜びを感じています。

濱田 邦子さん(令和二年十一月入会)

初めて触れる詩吟の世界に毎回発見があり、勉強になります。

富田 直氏(令和二年十一月入会)

先生のお手本に習いながらも自分らしく吟じたいと思います。

望月 保延氏(令和二年十一月入会)

寄付募集業務をしています。趣味はドラム演奏です。

榎本 美枝さん(令和二年十一月入会)

寄付募集業務をしています。趣味は詩吟になりました。

安藤 直道氏(令和三年五月入会)

「詩吟やってみない!」と表参道教場世話人の堀田様からお誘い頂き入門させて頂きました。発声練習では腹の底から声を出すことで自

然と背筋が伸びたことに驚かされました。詩の心を吟じるといふにはまだまだ至りませんが、吟じる時の心地よさは稽古初日でも体感することが出来ました。稽古を重ね、昇伝にもチャレンジしたいと思えます。

・吟の友が集まって、青山学院で立ち上がりました教場です。千代田岳精会の皆様、宜しくお願ひします。

・ゆり止めが得意です。基本から楽しく練習しています。

・表参道教場で再び詩吟を学ぶことが出来る喜びに浸っております。



### 訃報

◆菊地 龍駿氏(顧問)

一月七日逝去されました。享年八十五歳  
千代田岳精会副会長・東陽町ブロック長・東陽町教場長・経理部門リーダーと長年にわたり千代田岳精会の要職を務められ、調布教場、熊谷教場の開設等を指導、東陽町を支部教場へと大きく育てた千代田岳精会発展の功労者でした。謹んでご冥福をお祈りします。

菊地龍駿さんを偲んで

常任顧問 磯田 精信

菊地さん、貴方は本当に実直な人でした。本当に長い間お付き合いさせていただいて一緒

に詩吟の勉強をさせて頂きました。

貴方は本当に辛抱強い人でした。東北人の代表となるような人でした。

貴方が急逝されたことを聞いたとき、本当に愕然といたしました。貴方がこの世にいないということが私の胸に大きな空洞が空いてしまった思いです。悲しいです。

思い出は尽きないほどございます。一緒の最上川下りや泊りがけの旅の思い出等々

あなたのご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌

菊地龍駿先生へ

調布教場長 村林 恵山

菊地先生の訃報を聞きました。三日前に、先生、お話ししましたね。

まだまだ菊地先生のお力をお借りし、詩吟の勉強の強が：泣けました。

先生の優しさ、真面目に何事にも真剣に対応して下さいました。素晴らしい先生です。思い出もいっぱい貰いました。

寂しい思いです。十年間本当に有難うございました。

合掌

◆出水田鶴風氏

(新宿ブロック長・新宿支部教場長)

三月五日逝去されました。享年八十二歳

新宿ブロック長・新宿支部教場長・総務部門リーダーとして、千代田岳精会を支えて頂きました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

出水田鶴風先生を偲んで

新宿ブロック長・新宿第二教場長

坂下 光山

出水田先生が急逝された。去る三月五日の朝、入浴中の突然死だった。後に心筋梗塞が原因とご子息からお聞きした。

彼は故酒井龍帆先生がご存命中は新宿第二教場長で、酒井先生が亡くなられた後は新宿ブロック長としてご活躍されたが、教場では彼のユーモア溢れた指導が楽しいと人気があった。

彼は鹿児島出身で酒が好きであった。新宿明治安田生命ビルでの教場が終わると通常全員での昼食会となるが、終わると必ず「おーい、飲みに行くぞ」と声がかかった。お供はさまざまであったが、小生は必ず顔を出していた。彼は鹿児島出身だけあって焼酎の飲み方にはうるさく、お湯割りはお湯を先に注がないと機嫌が悪かった。酔うと「俺も酒井のようにぼっくり逝きたい」と言うのが口癖であったが、そのようになってしまった。亡くなる直前はコロナ禍のもと、お酒にお付き合いが出来なかったのは残念であった。

幹部会などで発言する際の彼の大声は、或いは懇親会などで呑んだ時の彼の大声は、まるで怒鳴っているようで時には響壁を買っていたようだが、もうあの大声が聞けないと思うと寂しい思いがする。今はコロナ禍の真ただ中で対面教場も儘ならないが、始まったらどこからでもなく「おーい、飲みに行くぞ」と声がかかるような気がする。ご冥福を祈ります。

合掌

## 編集後記

昨年、中国から世界に拡大した新型コロナウイルスは、急速なワクチンの開発と接種の普及により鎮静化が期待されていますが、死者が世界で四〇〇万を越える大疫病です。これから長くコロナと付き合い克服に努める日々となると思われます。

我々が楽しく学んできた詩吟は、感染リスクに直面して諸行事、教場研修等全て自粛対象となり各流派、岳精流各会・教場とも苦しい中で模索を続けてきました。

その中で全国吟道大会が感染防止に知恵を絞る二年振りに開催、岳精流の底力を示し、成功裡に終えることが出来ました。終了後感染者が出ないことを毎日祈る思いであった宗家も安堵されたと思います。

参加できない会・支部が多く出る中で、千代田が地元会として役割を色々担当し、大会を無事終了出来たことを会員の皆さんにお礼申し上げます。

「ちよだ」の発行も諸行事中止、延期で不定期となりましたが、六十七号をお届けいたします。

この間、千代田は支えてきた大切な大幹部二人を喪いました。生者必滅会者定離とは申せ、コロナは葬儀参列も吟友献吟も自粛という寂しく心残りの別れでした。

(八田龍仁)